

# 西中だより

平成27年度 No.26  
平成28年 2月 4日  
須賀川市立西袋中学校  
発行責任者 鶴巻 弘士

## &&& 今年の抱負（前号に続く） &&&

- ◇ **女子バスケット**：「今年の抱負は、一人一人が自分の目標を持ち、日々の練習をみんなで声を掛け合いながら、明るい雰囲気の中で行うことです。そして、みんなが満足できるいい試合をして、勝ちにこだわられるようにメンバーの仲を深めていきたいです。」
- ◇ **野球部**：「昨年の新人戦では、あまりいい結果を残すことができなかった。今年は、日々の練習から集中して行い、大会では良い結果を残せるように努力したいです。」
- ◇ **卓球部**：「今年の抱負は、自分達が練習して学んだことを大会で実践し、悔いの残らない試合をすることです。そのために、一日一日の練習に集中し、みんなで頑張りたいと思います。」



## ◇◆◇ 県書初め展（毛筆の部）入賞者紹介 ◇◆◇（敬称略）

- **書きぞめ準大賞**：松浦 瑠那（3年） ○ **同 奨励賞**：齋藤 茜（1年）、石塚 光（2年）
- **奨励学校賞**：須賀川市立西袋中学校
- # \$ # 亜欧堂田善版画展佳作・入選者紹介 # \$ #（敬称略）**
- **佳作**：鈴木 穂乃花（1年）
- **入選**：藤田 克彬（1年）、佐浦 将（1年）、佐藤 希美（1年）

## 《 校長のつぶやき 》・・・「スマホ依存からの脱却を」宗像 紀夫 弁護士 日曜論壇より・・・

- 今や私達の生活は携帯電話やスマートフォン無しでは成り立たない。また、多くの仕事がインターネットで結ばれ、不具合が生じた時には経済活動も止まってしまう。しかし、便利なものに頼り切っていると大切なものを失うことにならないだろうか。こんなことを憂いている時に、日曜論壇に書かれた宗像氏の「スマホからの脱却を」が目にとまったので紹介したい。これから頭を鍛え、豊かな人生を歩み始める生徒の将来の姿を思い描きながら、是非一読してほしい。
- ・「ここ数年来気になっていることがある。若者たち、いや、日本人全体が書物や雑誌、新聞など、「活字」を読まなくなってきたのではないか。」「法科大学院教授として教鞭を執っていたが、学生らに聞くと『新聞は取っていない。必要な情報はインターネットで入手できるから』というのだ。」「つまり、スマホを一台持っていれば、どんなことでも瞬時に調べられるのだという。少し、安易すぎないか。」
- ・「われわれが子供のころは、例えば野口英世がどのような人物であるかを知るには、図書館へ行き、人物事典や伝記などをひもといて克明にノートに写し、**知識を獲得**していったものだった。」「じっくりと読んだ書物は、心に残り、血となり肉となるという実感があった。**ネット検索での情報収集はわれわれを成長させるに適した知識の習得方法なのだろうか。**」「学生にテーマを与え論文を書かせると皆似たような画一的なものになることが多いとも聞く。」「**自分の頭で考え、理解するという作業が省略されてしまうからなのかもしれない。**」
- ・「もう一つ付け加えるならば、スマホの普及は日本人のマナーを著しく悪くしているように思う。『歩きスマホ』の迷惑、電車の中でもゲームやメールに没頭し周囲のことなど全く気にかける様子もない。自己中心的な人間が増えている。」
- ・「**若者たちには、ちまたにあふれる文学書、歴史書、専門分野の研究書など、何でもよいから乱読、多読して該博な知識（学問などにひろく通じる知識）を身につけてほしい。今すぐに役に立たないものでよいから幅広く吸収してほしい。**」
- ・「私は、昔から**人間社会を豊かに生きるために必要なものは『読書』**だと確信している。未知の先人たちの遭遇が人を育てるのだ。」